

# 学生参画 —FDの次のステップ—

## 特集

2012年度第2回教育支援センター  
FD研修会 開催 P1~P4

- 学生参画
- 日本のFDの定義の変遷
- 大学の教学、運営に  
学生自らに関わる制度
- ピア・サポート制度の  
3つのメリット
- 立命館大学の制度紹介
- ES(エデュケーショナル・サポーター)  
制度
- 学生と一緒に  
学びを上げる
- 質疑応答から

近年、FDの新たなステップとして、学生が学生の学びを支援する、あるいは学生が大学の経営や教学、そしてFDに対して提案・提言する、そのような仕組みが注目を集めています。

平成25年度「地(知)の拠点整備事業」の公募に東海大学で申請をした「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」が採択され、サービスラーニングの実施についても具体化していかなければならない状況となっています。



第2回 FD研修会の様子

2012年度第2回教育支援センターFD研修会では、沖裕貴教授(立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター長)をお招きし、「学生参画—FDの次のステップ—」と題した講演をいただきました。東海大学では、教育支援センターを中心に、LS(ラーニング・サポーター)制度等の学部学生を学習支援に巻き込み、先輩学生が後輩学生(新入生)を支援するような仕組みの導入に向けた検討が進められています。

### ■ 2012年度第2回教育支援センターFD研修会

2012年11月28日に湘南校舎で開催し、TV会議システムでつながれた全校舎(東海大学福岡短期大学含む)から、教職員合計131名が出席しました。

DVDの貸し出し  
(学内のみ)

教育支援センター教育支援課  
E-mail: [shien@tsc.u-tokai.ac.jp](mailto:shien@tsc.u-tokai.ac.jp)

# 学生参画—FDの次のステップ—

立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長 沖 裕貴 教授  
2012年度第2回教育支援センターFD研修会より

## 学生参画



沖 裕貴 教授

学生参画というとアクティブ・ラーニング(学生参加型授業、PBL等)も含まれますが、今回は、学生同士が学び合い、支援し合う「ピア・サポート」、FDや大学の運営に関わる「学生FDスタッフ」の活動について取り上げます。

私が私立大学でこの学生参画の話をする時、各大学では、ピア・サポートだと認知しないで行っている活動が、実はピア・サポートだったと気付かれることがよくあります。きっと、東海大学でもピア・サポートや学生FDスタッフの活動がたくさんあるのではないかと思います。

## 日本のFDの定義の変遷

1991年の大学設置基準の大綱化では、「教員の教授内容・方法の改善への取り組み」と極めて狭義のFDの定義でしたが、その後の大学設置基準の改正(FDの努力義務化、FDの義務化)を経て、法令の解釈が徐々に変わってきました。「教育の目標実現のための教員団の職能開発」「日常的な教育改善活動」となり、FDの定義は少し広くなりましたが、学生参画、教職協働にはまだつながっていません。

そのような中で、立命館大学では2007年度に、FDの定義(図1)を作成しました。立命館大学のFDの定義では、「Who: 教員が職員と協働し、学生の参加を得て実施」としてありますが、教職協働、学生参画が本当にFDの範疇に入る

のかというと、少し不安があります。それは、学生参画がFDの文脈の中で語られるのは、日本独自の発想だと考えられるからです。ただし、外国の文献を調べると、大学の質保証に関わったり、学生が先生の授業のコンサルティングをする等の取り組みが見られますので、学生参画について、今後、標準的にFDの文脈の中で語られるようになるかもしれません。

## 大学の教学、運営に学生自らが関わる制度

大学の教学、運営に学生自らが関わる制度で、日本が進んでいるのは「ピア・サポーター」と「学生FDスタッフ」です。

### ■ピア・サポーター

同じ学生同士(peer)が、専門性を持つ教職員の指導(supervision)のもと、仲間同士で援助し、学び合う業務に従事する。多くは授業内外で活動するが、その業務に対する報酬や単位のあるなしには関係がない。(参考:レイカー、1981)

### ■学生FDスタッフ

大学運営やFD活動そのものへの参画や、意見の表明等を行う学生、あるいはそれに伴う学生主体の企画、事業の実施等に従事する学生。学生自治会に所属する場合もあれば、ボランティアや公的な委員会の場合もある。

ピア・サポーターの大事なポイントは、「教職員の指導のもと」という点ですが、教員が全ての部署のピア・サポーターの指導を行うのは不可能であるので、それぞれの部署における職員の指導を受けることが大前提です。そういう意味でも教

職協働が活きてくることになります。

私立大学では、1960～70年代からピア・サポーターが活動しているところが多いようです。立命館大学では、1960年代からピア・サポーターが活躍し、現在は、21の活動に3000名以上(在学生数約34000名)がいます。

## ピア・サポート制度の3つのメリット

ピア・サポート制度を導入すると、どのようなメリットがあるかをご紹介します。

### 1. 対象者へのサービスの充実

学生同士が学び合い、支援し合うため、相手の学生にとって当然メリットがあります。

### 立命館大学のFDの定義

**Original Statement:**  
建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・他教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して、教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動(2007.5)

**Summary:**

1. **What for:** 建学の精神と教学理念、学部・研究科の教育の目標の実現
2. **What:** すべての日常的な教育改善活動
3. **Who:** 教員が職員と協働し、学生の参加を得て実施
4. **How:** PDCAサイクル

【図1】 2012年度第2回教育支援センターFD研修会 講演資料より

## 2. 自分自身の学びの深化と成長

ピア・サポートに従事した学生は、自分がとても成長したと実感するようです。基本的にピア・サポーターは、報酬の有無には関係ありませんが、報酬がある場合でも報酬以上の責務を担うことが多いのです。そしてそれをこなしていく過程で学生はとても成長します。そのため、ピア・サポーターは人気があり、抽選や面接をして決めます。ピア・サポーターを希望する学生は、ピア・サポーターの先輩が成長モデルとなっていて、必ず「先輩みたいになってみたい」と言います。

## 3. FDとSDへの寄与

私の授業ではES(エデュケーショナル・サポーター)に入ってもらいます。大規模講義のため、資料の配布、レポートの

回収、学生の個別質問の対応等、色々なことを担当してもらいます。その中で私にとっての一番のメリットは、授業の始まる前と終わった後に打ち合わせをし、その時にESから今日の授業はどうだったという評価やコンサルティングをしてもらえることです。これはとても役に立ちます。ESは「話し方が早くて一番肝心なところが聞こえにくかったので、来週もう一度言った方がいいですよ。」等、色々なことを教えてくれます。これは、毎回行われますから、学期末に行われる授業アンケートによる振り返りよりも、はるかに有意義で効果的です。ESにはそういう効果もあるのです。また、図書館にいるライブラリー・スタッフは図書館業務を学生目線から改善する色々なアドバイスをしてくれます。そういう意味でFD、SDへの寄与は大きいです。

## 立命館大学の 制度紹介

### ES(エデュケーショナル・サポーター)制度

立命館大学のES制度は、双方向型授業の実現のために、先輩学生が教員や学生のサポートを行う制度です。当該科目を優秀な成績で履修した学生がESとなり、教員と連携して授業を支援します。200人以上の授業もしくは、実験、実習、演習系科目には必ず配置されます。ESの手当は、1コマ当たり 時給800円×2です。また、教育開発推進機構がキャンパス毎に90分のES研修を行い、ESをつけた授業については、教員、受講生、ESに必ずアンケートを実施し、効果検証を行っています。ESには(図2)のように、ピア・サポート制度の3つのメリットに対応した3つの機能があります。

#### 学習支援:受講生の視点

受講生のアンケートでは、90%以上が「ESがいて良かった」と回答してくれています。「授業の運営がスムーズになった」「教員に加えてESがいることで、疑問点をすぐに解決することができた」「同じ学びをしている近い先輩の姿をみるので、とても励みになり、やる気も出た」「教員と学生

をつなぐ存在として非常に重要」という意見が出ています。

私の場合は、最初の授業でESに挨拶をさせています。そして、授業中は腕章をつけて机間巡視してもらいます。すると、授業の3、4回目には学生とESの面識ができ、とても良い雰囲気となり、私語対策にも有効です。私語を注意するのは教員の責任で、ESが関与しないのがルールですが、ESがそばを通過して“にこっ”とするだけで、静かになるという効果があるのです。最後の授業で書かせる15回の感想には、ESに対して「ありがとう」がたくさん書かれ、ESが最後の挨拶をすると拍手が起こりますが、私が挨拶をしてもそのままです。悔しいですが、それくらいピアの影響は大きいのです。

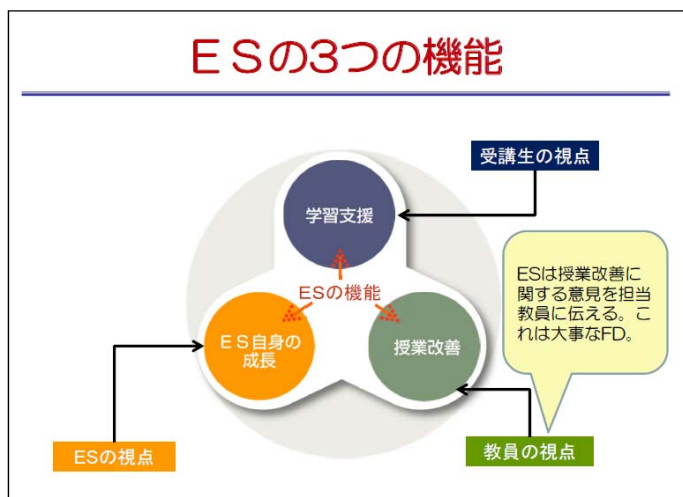
#### 授業改善:教員の視点

先程説明したとおり、ESが私の授業を直後にフィードバックしてくれるのは本当にありがたいです。教員が感じている授業改善の効果としては、「円滑な授業運営、学生の疑問へのすばやい対応、個々の学生へのきめ細かい対応、ESの先輩学生としての学生へのアドバイス」等です。

#### ES自身の成長:ESの視点

ピア・サポート制度の3つのメリットを実現するような利用を

## ESの3つの機能



【図2】 2012年度第2回教育支援センターFD研修会 講演資料より

## ESの業務規定

1. ESは、正課科目に配置することを原則とする。
2. ESは、原則として学内で行う業務に限定する(資料等の持ち帰りを認めない)。
3. ESの業務内容は、教育活動の一環としてESを担う学生の学びと成長にも寄与することを前提とする。したがって、業務補助としてのアルバイト的な利用は認めない。
4. 業務内容は、講義進行の補助(グループワークの進行や質疑応答等)、教材作成、コミュニケーションペーパー等の回収・整理などを原則とし、個人成績評価に関わる業務を行わないこととする。したがって、成績評価に関連するテスト、レポートの採点業務等はESの業務とはしない。ただし、コミュニケーションペーパーの整理や入力、コメント等、レポートの添削等はこの限りではない。

【図3】 2012年度第2回教育支援センターFD研修会 講演資料より



強調するため、ESの業務規定(図3)を作成し、ESの学びと成長にも寄与することを前提とすることで、アルバイト的な利用にならないようにしています。ESのアンケートでは、「受講生の質問をしっかりと聞き、分かりやすく教えたり、問題箇所を一緒に見つけてあげた」「受講生からの質問に対応することで人に物事を分かりやすく説明する力やコミュニケーション能力が向上した」等の意見が出ていますので、概ね成果が

上がっていると思います。

ES制度以外にも、立命館大学にはたくさんのピア・サポーター制度や学生FDスタッフ制度があります(図4)。それぞれ担当部局の職員が中心となり、指導、研修、効果検証、報告書作成等を行っていますが、問題点は、全体を統括している仕組みがないことです。これからは、スーパービジョンだけではなく、全体を統括する仕組みもあった方が良いでしょう。

**ES制度以外の主なピア・サポーター、学生FDスタッフ**

(参考)2010年度立命館大学職員共同研修報告書

ピア・サポーター 制度	支援対象	概要
オリター・エンター	新入生支援	クラス懇談会、基礎演習、サブゼミ、新歓祭典、FLC(フレッシュマンリーダーズキャンプ)、オリエンテーション企画における上回生が新入生の大学生活への導入を支援する制度。(謝礼:補助有)
ジュニア・アドバイザー(JA)	キャリア支援	就活を終えた4回生・修士2回生による低回生に対する懇談会や就職活動体験報告会開催などの就職活動支援。(謝礼:一部有)
留学生支援スタッフ(TISA)、バディ	留学生支援	留学生の正課外を中心とした支援の実施。(謝礼:無)
ライブラリー・スタッフ	図書館支援	利用者の配架業務等の基本業務に加え、図書館利用促進を目的としたポスター作成、検索ガイダンスなどのプロジェクトの実施。(謝礼:有)
レインボー・スタッフ	情報システム支援	マルチ・メディア・ルームやサービス・カウンターでの利用者支援を柱に、情報教室の機器管理やプロジェクト活動の実施。(謝礼:有)
学生広報スタッフ	広報支援	学内の情報を分かりやすく楽しく知ってもらえるよう学生の視点による企画立案や情報の発信。(謝礼:一部有)
学生FDスタッフ 制度	概要	
キャンパス整備プロジェクト	学生が主体となり、「学生目線」で理想のキャンパスを大学に提案する活動団体。(謝礼:無)	
学生FDスタッフ	学生が主体となり、授業や教育の改善を目指して活動する団体。「しゃべり場」や「全国学生FDサミット」を開催。(謝礼:交通費補助あり)	
学友会(学生自治会)	学生の自治組織であり、大学執行部と教学や学生生活改善に学生の立場から交渉する最も伝統的な組織。	

【図4】 2012年度第2回教育支援センターFD研修会 講演資料より抜粋

**学生と一緒に学びを上げる**

「ピア・サポーター」「学生FDスタッフ」がうまく機能するには、学生をいかに信頼して任せるかということだと思います。学生の力はとても大きいですが、ただ、学生を安価に使える労働力だと考えることには問題があります。学生がサービスを楽しむだけのお客さんというような捉え方も、もう既に間違っています。学生は学びのコミュニティの一員、我々と一緒にコミュニティを作っているという認識こそが大事であり、「学生と一緒に学びを上げていく」ということなのです。

次の教育改革、FDの展開は、教職協働、学生参画を見渡す議論から始まるのではないかと思います。やらされるFDではなく、楽しいFDになるのかなと思います。

**質疑応答から**

**質問(教員):**

全体で34000名のうち、3000名の学部学生がピア・サポーターを担っているということですが、成績で選抜されているのでしょうか。また、学生側からみたときに、週に何時間程度、ピア・サポーターの活動に携わっているのでしょうか。

**回答(沖教授):**

選抜については、それぞれ基準が設けられ、一律の基準ではありません。むしろ、選抜されてからの各部署での研修が重要になります。また、一人の学生が数種類のピア・サポーターになっている可能性があり、学生自身の負担感を考えておく必要があります。そういう意味でも全体を統括する部署が必要であり、負担が集中しすぎないようにする配慮が重要です。

FD、SD、教職協働 について情報をお寄せください。(校舎、学部、職場単位で取り組んでいる活動等)  
 教育支援センター教育支援課 Tel:0463(58)1211(代) E-mail:shien@tsc.u-tokai.ac.jp